

# 発明の母は「必要」にあらず、「苛立ち」にあり

ダイソンがドライヤーを発売する時のお話です。

ダイソンが美容機器に進出するというニュースでその価格と性能が話題を呼んでいるそうです。ダイソンは市場調査に基づいての製品開発の視点ではなく、商品の不満や、クレーム分析に力を入れて商品開発をしているとのこと。

飽食の時代と言われ久しい今日、満足は「満腹の胃袋から、無限の脳の満足」の追及へと変化していると言われていました。

私たちが保険ビジネスを考えるうえで、市場の欲求だけでなく、苛立ちの解消をちゃんと考えなければいけないのではと思います。

新しい商品は「あれも出ます。これも対応します」ではなく、理解・納得・把握をして“満足”をお客様にお届けできるよう、担当者に相談しやすい環境や、しっかり対応してくれる安心感を追及することこそダイソンに見習うべき姿勢ではないかと感じました。



写真：三浦俊裕氏  
写真家  
全日本写真連盟 会員  
日本風慶写真協会 会員  
愛知、三重、奈良を中心として中部、近畿、  
関西地区の四季の風景を撮影する、写真家  
として活躍されています。  
WebSite :  
<http://siratoriyasumi.jimdo.com/>  
blog :  
<http://blog.livedoor.jp/tmiura19660111/>

★ Photo by ToshihiroMiura ★

今年、パナマ文書の実名が公開され、話題となりました。

租税回避を倫理的にどう捉えるかを、この機会に私達はしっかりと考える良い機会だと思います。

実は以前から生命保険は使い方によっては、ミニ・パナマ文書になりかねない性格を持った商品になりかねないからです。

確かに資産防衛は必要ですが、今回の様に一部の超富裕層が皆の知らざるところでお金の管理をきめ込むのは如何なものでしょう。

企業であれば社員は「そんな金があるなら私たちの給料を上げてくれ。」

国民であれば「消費税を上げるよりそちらから取ってくれ」との言い分が聞こえてきそうです。

しかし、経営を考えるうえでは、将来においても安心して暮らせる、働ける環境を保つことは何より大切です。

企業の社会的責任 CSR が益々高まっています。

残念ながら法律は必ずしも正義の味方とは言えず、知っている人達の味方です。生命保険も沢山の人の夢の詰まった会社経営を守るために、きっちりとした有効的な利用法をして欲しいと願います。